

会 議 録

会 議 名	令和6年度第2回野田市総合教育会議
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	1 GIGAスクール構想第2期に向けて（公開） 2 福田地区学校配置適正化について（公開）
日 時	令和6年10月31日（木） 午前9時から午前10時3分まで
場 所	市役所低層棟2階 中会議室
出席者氏名	委員 鈴木有（市長） 染谷篤（教育長） 伊藤稔（教育長職務代理者） 飯田芳彦（教育委員） 高橋保（教育委員） 事務局 今村繁（副市長）、牛島修二（市政推進室長）、生嶋 浩幸（教育次長兼生涯学習部長）、森功（学校教育部長）、大久保貞則（総務部長）、大久保崇雄（教育総 務課長）、安藤剛行（生涯学習部参事兼生涯学習課長）、 廣居信和（学校教育課長）、間々田英示（指導課長）、 今井清人（学校教育課主幹）、初見龍一（行政管理課 長）、内海孝幸（市政推進室主幹）、蓮沼憲治（市政 推進室副主幹）、岩田耕平（市政推進室副主幹）
欠席委員氏名	永瀬大（教育委員）
傍 聴 者	1名
議 事	第2回野田市総合教育会議の会議結果（概要）は、次のとおりである。
市政推進室主幹	会議は原則公開、会議資料及び会議録の公表について説明した。 会議録作成のため録音機を使用することについて了承を得た。 1名から傍聴の申込みがあり、円滑な議事進行を図るため、既に入室したことを報告する。 出席者について報告した。 以後の議事進行は、野田市総合教育会議運営要項第2条に基

<p>市 長</p>	<p>づき、市長が議長を務めるものとされていることから、議長を市長に依頼する。</p> <p>1 開会 開会を宣言する。 本日協議していただく議題は、「G I G Aスクール構想第2期に向けて」「福田地区学校配置適正化について」の2件である。</p> <p>「G I G Aスクール構想第2期に向けて」については、令和2年度、3年度の第1期で一人一台端末を整備し、N I C T（ニクティ）プロジェクトを進めていただいているが、今後の第2期整備に向けた課題や取組などを協議する。</p> <p>次に、福田地区学校配置適正化については、福田地区学校適正配置検討委員会です承いただいた、「小中一貫教育」と「義務教育学校の開校」を協議する。</p> <p>皆様におかれましては、自由な意見交換ができるよう忌憚^{きたん}のない御意見を頂きたい。</p>
<p>市 長</p>	<p>2 議事 議題1 「G I G Aスクール構想第2期に向けて」 説明を求める。</p>
<p>指 導 課 長</p>	<p><配付資料に沿って説明></p>
<p>市 長</p>	<p>意見を求める。</p>
<p>市 長</p>	<p>I C T教育に反対はしないが、説明の中で、I C Tありきではないという話があった。</p> <p>I C Tが得意な先生はどんどん進めていく、一方でI C Tが苦手な先生もいる。I C Tが得意な先生は、子供たちにI C Tを使い、便利でスムーズに進む教育をしてしまうことで、子供たちもI C Tの方が楽だという感じになる。</p> <p>I C T教育を実施したことによって、学力にどの程度影響が</p>

出ているのか。基本の「読み・書き・そろばん」が、ICTを活用することによってどのような形で影響が出ているのか。

資料9ページと10ページの調査結果は、児童生徒と学校とは全然違う。

資料9ページの児童生徒に対する調査では、「前学年までに受けた授業で、パソコン・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか(週3回以上)」という問いに対しては、小学校の児童は65.4%、中学校の生徒は77.3%。

一方で、資料10ページの学校の先生に対する調査では、「前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたパソコン・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか(週3回以上)」という問いに対しては、小学校の先生は95.0%、中学校の先生は100%。調査結果をどう分析するのか。

先生はICT機器を授業に活用していると思っているが、子供たちは、授業にICT機器を使用しているとは先生方ほどは感じていない。

一番大きな問題は、資料11ページの学校間格差であり、「前学年までに受けた授業で、パソコン・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか(週3回以上)」という問いに対しては、A小学校では58.7%に対して、B小学校では約70.5%である。学校間で、ICT機器の使用に差があるのは問題である。A小学校の児童は、「週3回以上、授業でICT機器を使用している」と回答したのは、一番低い58.7%だが、一方で、先生方は「週3回以上、授業でICT機器を使用している」と回答したのは、平均で95.0%である。58.7%と95.0%の格差はどうか。

資料15ページで、「ICTを使うかどうかの選択ができる力」の育成の説明があった。児童生徒全員がICTを使うレベルが同じならば良いが、レベルが違う中で選択と言われても、パソコンを上手に使えないから手で書くしかない選択も出てくる。ICTを使えるレベルが同じくらいになっていないと、選択するのは難しい。

また、パソコン、タブレットありきであるのが一番怖い。本来すべきことが、おろそかになっていないのかという気がし

<p>指 導 課 長</p>	<p>てならない。</p> <p>確かに、パソコン、タブレットは、必要なツールかもしれないが、説明を聞いてしまうと、パソコン、タブレットありきみたいになっていて、どうなのか。本来の学力である「読み・書き・そろばん」ができた上でパソコン、タブレットを使うのなら良いが、パソコン、タブレットを使うと、調べると答えがすぐに分かるので、どうしても楽な方に行ってしまう。パソコン、タブレットでは、読解力をつけるには、難しい部分もあるので、教育委員会では、どのように考えているのか。</p> <p>市長が言ったとおりで、日本よりも早く、学校教育のデジタル化に傾いた国はあるが、「学校教育のデジタル化は、学力に結び付いていないのでは。」と気づき始めているという新聞記事があった。新聞記事から「私たちはどうしたらいいのか、日本も考えないといけない。」と思ったが、今のところ国からは、学校教育のデジタル化に対する意見や考えは何も出ていない。</p> <p>市長が以前から心配していたことが、正に先進的に進めていた国の中で「大丈夫なのか。」という声が出てきたことは、真摯に受け止めなければならないと考えている。</p> <p>一人一台端末を用意してもらったので、上手に活用していきたいとも考えている。</p> <p>清水台小学校の例だが、昨年、N I C T（ニクティ）推進校として公開研究をした。今年は研究指定校ではないが、校長先生から「自主的に公開をさせてほしい。」との申出があり、自主公開という形で研究発表する日を設けた。</p> <p>校長先生に話を聞いたところ、当初、I C Tが得意な先生からは「是非したい。」という声は出たが、ベテランの先生を中心としたI C Tが不得意な先生からは「何で研究指定校ではないのに、わざわざI C Tを活用して授業公開をするのは自信がない。」という声が出た。</p> <p>I C Tが不得意な先生に対しては、教育委員会が掲げているN I C T（ニクティ）教育を説明するとともに、校長先生も「子供たちに差があってはいけない。だから、得意な先生だけがI C Tを使った授業をすればいいというわけではない。先生も</p>
----------------	---

<p>市 長</p>	<p>一緒に勉強をしてICTを使えるようになって、子供たちにICTを使えるような力をつけさせていかなければいけない。」ことを力説した。最終的には、ICTを使える先生方が周りでフォローをして、全ての先生がICTを使った自主公開研究を行った。</p> <p>ICTが得意な先生と苦手な先生がいるのは事実。それに対して、どうメスを入れていくのかと考えたときに、清水台小学校での出来事を、清水台小学校の中だけでとどめるのではなく、広げていく必要がある。</p> <p>また、別の調査等では、最初からICTということで、触るのを拒否している感じのベテランの先生方もいる。各校に置いているICTリーダー、あるいは地区に置いているブロックリーダー、更に、市内に置いているNICT（ニクティ）アドバイザー等々が、一緒に操作をして、使い方を教えてあげることも必要だと考えている。</p> <p>しかし、これだけでは学校間格差を埋められない。第2期でも、引き続き情報共有等を進めるとともに、Googleの協力も受けながら進めたいと考えている。</p> <p>なお、ICTを使ったことによる学力への影響については、まだ結果が出ていないため、引き続き全国学力テストの結果、学習到達度調査の結果等も見ながら確認したいと考えている。</p> <p>パソコン、タブレットを使い始めて、まだ年数が経っていない。成果と言っても方向性を間違えてしまうと、誤った方に行ってしまう気がするので、子供たちには、しっかり教えていかないといけない。</p> <p>携帯電話等もほとんど所持していて、常に触っている子が多い。学校でもパソコン、タブレットだけになってしまうと、「もうパソコンとタブレットだけでいい。」という話になったときに、本来身につけるべき学習が身に付かない心配がある。便利になればなるほど、パソコンやタブレットに頼ってしまい、考えなくなってしまうことが、子供たちにとって一番マイナスになる。</p>
------------	--

伊藤委員	<p>今回の調査結果を見ると、野田市では、全国の学校の先生と比べタブレットを使用している割合が、平均よりも随分高いと感じた。</p> <p>報道では、学校の先生方は、授業でICT機器を平均で3割ぐらいしか使っていないとされている。ICT化、デジタル化、情報化の波は、世界中の話で、電車に乗っても携帯で情報を見ていて、新聞や本を読んでいる人はほとんどいない。</p> <p>昨今、情報が正しいのか正しくないのかという判断をきちんと見抜けるリテラシーが必要で、今までの「読み・書き・そろばん」だけでは、もう限界になっている。</p> <p>情報化になると、端末を使って受け取っている情報が「本当なのか。あるいは嘘なのか。ブラックなのか。」と見分けられるようなリテラシーみたいなものも、ICTの中に入れていけない。</p> <p>情報が正しいのか正しくないのかを見抜ける力は、今までの「読み・書き・そろばん」にプラスして、情報化された社会の中で求められていることも一緒に取り組んでいけない。</p> <p>そして、市長が心配していることは、日本だけのことではない感じを受けた。</p>
高橋委員	<p>指導課長の話聞いて、学校間格差を解消するために、リーダーを活用していく方向性があった。学校現場では、ICTが使える先生方が随分増えたようにも聞いている。また、苦労しているという話も聞いている。</p> <p>ICTを使いこなせない人間にとって、周りに聞ける人がいるのは非常に助かる。不得意な先生方に対してリーダーが適切な助言ができる体制、組織作りを、是非、考えてもらいたい。</p> <p>市長や伊藤委員の話のとおり、考える成果、課題が、第2期でも解決できるように努力していただきたい。</p> <p>もう一点、話には出てこなかったが、国は、紙の教科書をデジタル化しようという方向に進んでいる中で、英語教育、英語の授業については、既にデジタル化されているので、成果と課題についても、しっかりと把握をしていただきたい。</p>

<p>市 長</p>	<p>指導課長が言っていた諸外国の例は、スウェーデンである。やはりマイナス面が出てきていることを考えると、野田市も、マイナス、プラス両面をしっかりと検討していく必要がある。先に実施している英語教育についても、どういう状況になっているのかを把握するように要望する。</p> <p>教科書のデジタル化の中で、一方では「図書館や本屋に行って本を読もう」と言っている。子供たちからすると「どちらなの」という話になる。</p> <p>子供たちはデジタルで本を読むことができるので、戸惑いが出る。デジタルだけで良いと思ってしまうことが一番怖い。</p>
<p>飯 田 委 員</p>	<p>例えば、地図を見て等高線を見て、どのような地形なのか理解しようとするときに、デジタルで映像や画像で視覚的に理解できることは、私は素直に便利だと感じる。</p> <p>当然、学力向上のために取り組んでいると思うが、課題としては、わかりやすい授業や理解しやすい授業のためには、パソコンやタブレットをどのようにして使って、どのように活用したら良いのか。校長先生を始め、リーダーやブロックリーダーを活用しているとの話を聞いたが、更に裾野を広げるためにも、苦手だと思う教員方が積極的に活用できるように、教育委員会でも取り組んでもらいたい。</p>
<p>市 長</p>	<p>議題2 「福田地区学校配置適正化について」</p> <p>説明を求める。</p>
<p>学 校 教 育 課 長</p>	<p><配付資料に沿って説明></p>
<p>市 長</p>	<p>意見を求める。</p>
<p>高 橋 委 員</p>	<p>学校教育課長からの説明を聞くと、二ツ塚小学校の保護者からは、「統合する必要はない。」という意見に対しての回答もあったが、福田地区3校、あるいは二ツ塚小学校と福田第一小</p>

	<p>学校の統合という方向で間違いないのか。そして、意思統一されていると考えていいのか。</p> <p>年々、児童数が減少していく状況の中で、福田第二小学校をどうしていくべきか。今、福田第二小学校は、小規模特認校として、ある程度の成果を出している。ただし、いろいろな考えの保護者がいるとは思いますが、今の児童数がずっと続くわけではないので、基本的には、福田第二小学校の学区に住んでいる児童数を基準に考えないと、そのうち、人数からでは課題が把握できなくなる。義務教育学校という方向性を持ちながら課題を解決していただきたい。</p> <p>小規模特認校については、周りに義務教育学校に移行した事例を持っている学校があれば参考にして、保護者の皆さんの不安を解消しながら、是非、義務教育学校に移行してもらいたいと考えている。</p>
伊 藤 委 員	<p>小規模特認校の福田第二小学校は、地元の子供たちが現在半分ぐらいで、あとは通学区域外からの子供たちが通っているという理解でよろしいのか。</p> <p>現在、通学区域外から福田第二小学校に通っている子供たちを義務教育学校に移行したときに、通学区域外の子供たちも通えるようなシステムは残るのか。</p>
学 校 教 育 課 長	<p>御質問の内容は、方針として示した小規模特認校の在り方そのものに係る問題であり、今後検討していくものとなる。どのような在り方が最善なのか、子供たちのことを最優先に考えて進めて行く。委員の発言のとおり、小規模特認校である福田第二小学校に通っている児童と保護者からは、福田第二小学校の環境と教育理念に賛同し、高い評価を受けている。今後、地域と議論をしながら丁寧に検討していく。</p>
伊 藤 委 員	<p>義務教育学校は、小、中学校の垣根がない。中学校の教科専門の先生が、小学校高学年の英語、算数、理科の分野で活躍することができる。また、一般の小、中学校とは違うという特色を、子供たちにアピールすることができることを理解いただい</p>

副市長	<p>て、資料のタイムスケジュールで丁寧に説明して進めてもらいたい。</p> <p>補足するが、検討委員会です承をいただいたことは、福田地区に義務教育学校を作ることであり、福田第二小学校については、小規模特認校として残すのか、義務教育学校の中に入れるのかどうかも含めて未定である。</p> <p>小規模特認校は市全域が通学区域であり、福田第二小学校は、関宿地域から地理的に相当離れていることから、今の場所でのいいのかも含めて検討する必要がある。</p> <p>今後、小規模特認校の在り方については、スケジュールの通り検討していく。現在、福田地区に義務教育学校を設立することは決まったが、小規模特認校の在り方については別で考えてもらいたい。</p>
飯田委員	<p>校舎の在り方については、これから議論をすると思うが、廃校という言い方でいいのか。</p> <p>スクールバスは、通学時間帯以外は、市民の皆さんのコミュニティとして利活用することも検討してもらいたい。</p>
市長	<p>今後の検討課題になる。</p>
高橋委員	<p>福田地区の小、中学校の方向性は、今後検討するところもあるということだが、今使っている二ツ塚小学校、福田第一小学校は、今後どう活用するのか。非常に難しいというよりも、いろいろな活用が考えられる。</p> <p>これについても、是非、検討を進めて有効活用が図られるようお願いする。</p>
副市長	<p>当然、統合後の校舎の活用についても、地域との協議が必要なので、検討課題の中に入ってくる。</p> <p>当該校は避難所としての機能があるため、なくすと、避難所が遠くなってしまう方が出ることになる。その点を含め、統合後の活用については、全国でいろいろな活用例があることから、</p>

市 長	<p>それらを研究し、地元の皆さんと話し合っ て進めていきたい。</p> <p>この際、ほかに自由意見を求める。</p> <p><ほかに意見なし></p>
市 長	<p>3 閉会</p> <p>閉会を宣言した。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>